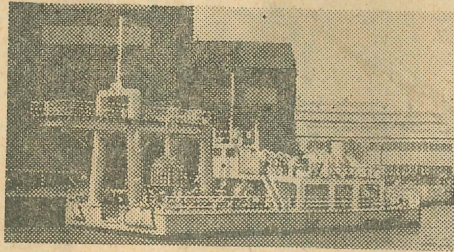
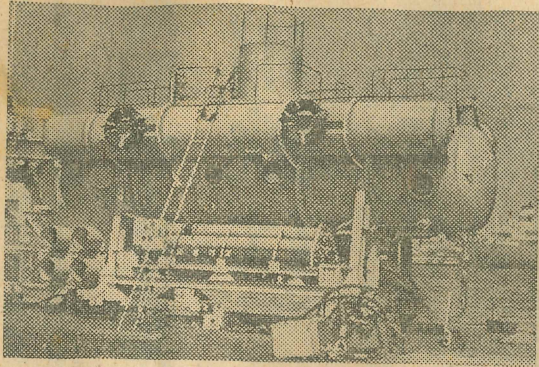


海中作業システム

「シートピア」



竣工披露を行った海中作業基地本体と水中エレベーターを積載した支援パイ

水深百メートルでもOK

海洋開発を進めている科学技術庁は、昭和四十四年度から海中開地システムが完成したので、二十七日午後二時から川崎市水江町の

日立造船神奈川工場で竣工披露式を行い同システムを「シートピア」

ア」と命名した。

海中作業基地システムは、海洋の調査研究や深い所の潜水作業を行うために必要な種々の生態的、工学的諸問題を解決するために建造されたもので、海中作業基地本体、水中エレベーター、減圧タンク、支援パイからなっている。

海中作業基地本体は、三菱重工で建造され、全長十・八五メートル、幅四・五メートル、高さ六・五メートルの円筒形タンクで、水深百メートルに設置しても耐えられるように設計されており、四人が居住できる。

水中エレベーターは、海上と海中の作業基地を結ぶ昇降装置で、自力浮上機能を備えている。減圧タンクは、海中作業基地の居住者や水中エレベーターの乗組員の潜水病を防ぐための支援パイに積載されている。水中エレベーター、減圧タンクとも中村鉄工所が製作した。

支援パイは、海上で水中エレベーターの昇降操作や海中装置への指令などを行う。長さ二十五メートル、幅十一メートル、深さ三メートルの自力航行のできない指令船で日立造船が建造した。これらの総工費は三億五千万円。

科学技術庁は、このシステムを使って、こんご潜水技術者訓練、シミュレーション訓練などを行い、十一月に三十日居住実験、四十年七月に六十日実験、四十八年七月には水深百メートル一ヶ月の居住実験を行う計画である。

一方、同庁ではさらに、この海中作業基地システムと一連の実験の名称を一般から公募していたが「シートピア」と決ったので、実験装置にシートピアと命名するとともに、海中居住実験計画を「こんごシートピア計画」と呼ぶことにした。